

企業技術者等活用プログラム (平成20年度～22年度)

プログラムの概要

液晶ディスプレイをはじめとした現代の最先端分野におけるものづくり技術は、高度化しており製造過程の分業化が進んでいる。分業化によって製品の生産効率は向上するが、他分野に関する知識は乏しくなり、各部署の技術者が製品全体を把握したうえで部材を開発・改良することが難しい状況にある。

本プログラムでは、多分野に亘って広く俯瞰的な視点をもった人材を実践的に育成することを目的として、企業人等を講師とした「液晶ディスプレイ講座」を米子高専にて実施する。液晶ディスプレイの動作原理を理解するために必要な、電子回路や化学、光学など多岐に亘る分野を幅広く取り扱い、学生のもつ視野の拡大を図る。

本プログラムでは、液晶ディスプレイ関連産業に関する「集中講義」と周辺技術を深く学ぶ「アドバンスド・ゼミ」を行う。「集中講義」は、平成19年度から企業人講師を招いて米子高専で実施している初心者向け「液晶ディスプレイ講座」（平成19年度は8時間実施）に加える形で行い、液晶ディスプレイ関連産業についてより広く学ぶ。また、それらに関する品質管理、特許情報の取り扱いなども取り入れ、より汎用的な事柄が学習できるよう工夫する。「アドバンスド・ゼミ」は、品質管理や電子回路などの専門分野を少人数のゼミ形式でより深く学ぶコースとして「統計的品質管理」「品質工学入門」「アナログ／デジタルIC基礎」「VHDLによるデジタル回路設計基礎」「ユビコン時代の組み込みシステム入門」の全5講座を実施する。

また、他分野に亘る地域連携強化を担当するコーディネーター1名を非常勤として採用し、地域や学生のニーズの把握や地域企業との共同教材開発の推進などを担当させ、地域共同教育の強化を図る。

